

## 和文要旨

「神様に御誓い申しあげました……」  
——廣池千九郎と誓いの実践——

ピーター・ラフ

本論文は、大正元年（1912年）に廣池千九郎が行なった神に対する誓い——モラロジーの創設につながった誓い——の文脈を探し出し、提示しようとするものである。マハトマ・ガンディー（インド独立の父）、オシップ・マンデリシュターム（ロシアの詩人）、トマーシュ・マサリク（チェコスロバキア共和国の初代大統領）らを含め、廣池と同時代を生きた何人かの代表的人物の生涯における神に対する誓いの重要性に、議論の焦点を合わせている。

20世紀初頭に道德の根拠を擁護することが困難となってきたとき、道德的努力に伴う苦難を耐え抜くために、より強力な内的力強さを必要とした廣池のような人物にとって、誓いは大切であったということが、本論文の結論である。（訳、山崎成子）